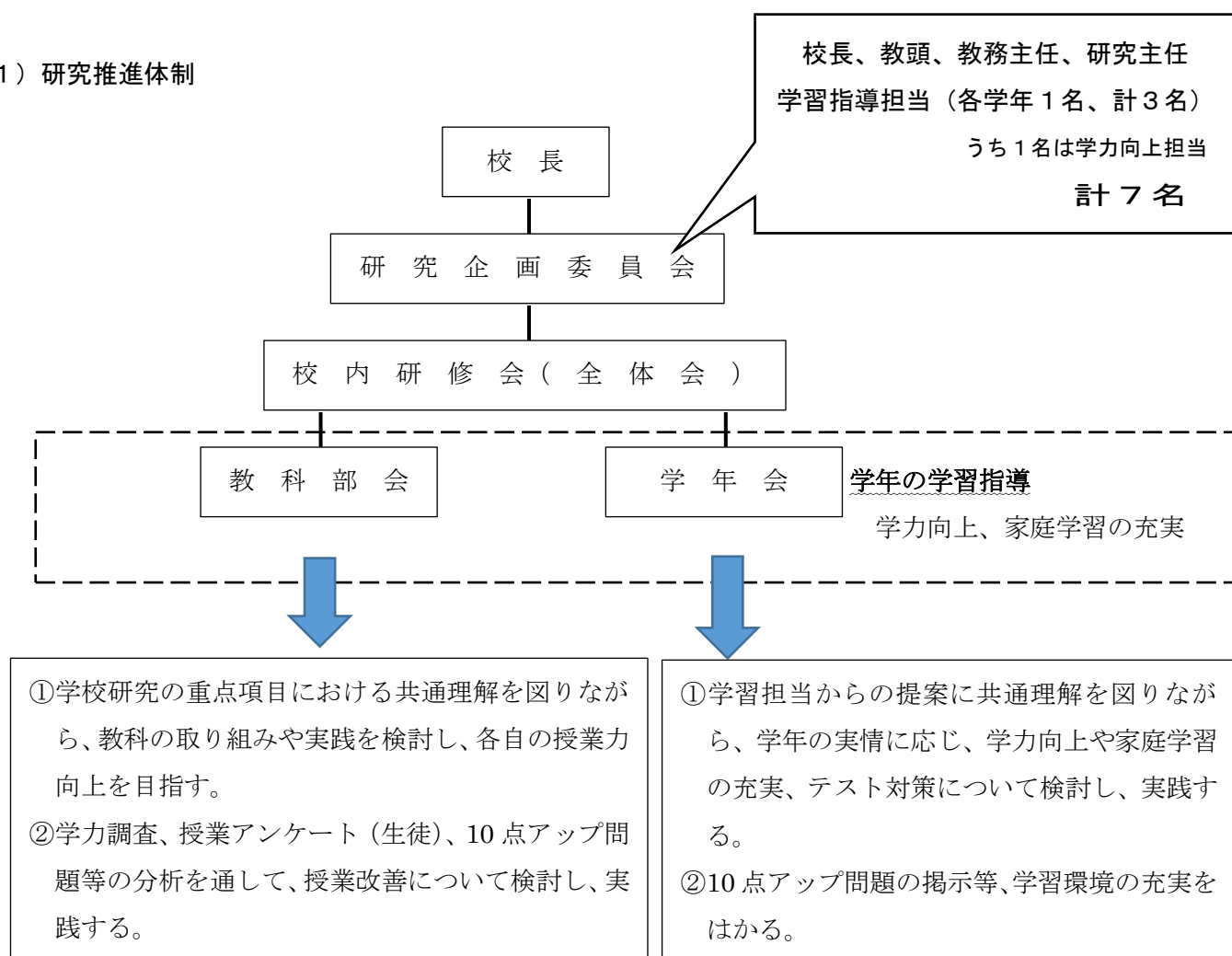


研究の組織と運営

(1) 研究推進体制



(2) 研究の進め方

- ① 研究企画委員会が提案した企画等に基づき、学校研究を教科部会および学年（学校）全体で進める。
- ② 教師も生徒も「学びあい」。教師側は共通実践を通して、同僚性を高める。

3. 研究の概要

(1) 令和7年度 研究主題（案）

考え、高め合い、表現する生徒の育成

～見通しと自己決定の場を通して～

(2) 主題設定の理由および研究の重点

昨年度の生徒アンケートでは、全教職員が「指導したことを褒めている」と思っていることについて、全教科平均における肯定的評価（A+B）は78.4%となっており、8割弱の生徒たちは、褒められたという実感はできているが、その一方で残念ながらそう思っていない、感じていない生徒が、全教科平均21.6%存在していることが分かった。また、教職員は「思考・判断したことを表現する場を確保している」と思っている（94.7%）が、「学んだことを自分で表現している」と感じている生徒は、肯定的評価（A+B）で、全教科平均83.8%となっており、その意識差は10.9ポイントとなっている。

つまり、本校の生徒の課題として「自分の考えを十分にもてない」または「考えをもっているが表現しない、表現できない」ため、「学んだことを自分で表現していない」と考える傾向があるのではないかという実態が分かった。

本校生徒の課題 自分の考えを十分にもてない・・・考えをもっているが表現することができない・・・
自分の考えをもっているが表現しない・・・

目標（目指す生徒の姿） ～教科のねらいに基づいた生徒主体の姿へ～
教科の見方、考え方に基づいて、自分の考えを表現することができる生徒を育てる。

そのためには、どんな方法があるか？ ↓ どのように解決していくか？

Step 1

△活動の見通し
○解決の見通し

①教師自身が**単元の見通し**をもつ
課題の吟味が必要！

必要感のある学び
地域や社会と関わる題材
生徒が**試行錯誤**する場の保証

②生徒自身に**単元の見通し**をもたせる △教師が見通しを示す

- ・単元全体（どんな力をつけるのか）の見通しを生徒にもたせる。
 - ・「単元を貫く目的意識」を生徒に持たせる授業づくりを目指す。
- 「これができるようになるにはどうするか？」・・・生徒は見通しをもてば、やろうとする！

Step 2

①「自分の考え」をもたせる（自己決定）

思考ツールの手立て等

自由進度学習

書き方の指導

板書の工夫

ワークシートの工夫

資料の工夫

掲示の工夫

ICTの活用

対話の工夫

言語活動の充実

課題意識をもたせる工夫

など

さらに Step 3

（余力がある場合）

②「自分の考え」をもたせる（自己決定）を生かす

個に応じた指導

見とりと評価

まとめ（振り返り）

アフターケア

対話の充実

話す、聴くの指導

発表のしかたの指導

深める発問

話し合いの指導

ICTの活用

など

- ・生徒自身が学習課題や学習方法、学習対象、学習形態などを選択する場の確保
- ・1人で考える時間の確保→自分の考えを、みんな（班、ペア）の前で発表する場の確保
- ・多様な教材、教具、資料の準備 ・対立意見をうむような発問の工夫
- ・自分の考えや思考過程が分かるようなノート、ワークシート等の書き方の指導
- ・生徒自身が今日の学習を振り返り、次（これから）の学習について考える場の確保→自己存在感
- ・間違えた応答も大切に、どんな発言でも取り上げて指導に生かす工夫→自己存在感→受容の空気へ

土台→褒め・認めの言葉がけ&授業規律（生徒指導：人間関係づくり）

共通の軸（教科特有の考える軸・思考の方向性）

生徒に自らの考えを表現する力を身に付けるためには、まず Step 1 として、教師は見通しをもって単元の計画を立てる必要があります、その中で考えたくなる課題の吟味は必須であるといえる。そして、そのような単元の見通しを、生徒にもきちんともたせることが大切といえる。授業の進め方がはっきりしていれば、安心して学ぶことができ、生徒自身も見通しをもって学習に取り組むことができるためである。

次に Step 2 として、授業の進め方がはっきりしてくることで、単元計画の中で、どんな自己決定の場が設定できるかどうかを検証することになる。ここについては、教科の特性や単元の内容などに大きく関わってくるため、各教科または教師個々が、生徒の実態に応じて柔軟に、さまざまな工夫をすることになる。

本校の学校研究としては、生徒に見通しをもたせ、さまざまな自己決定の場を工夫して設けることで、生徒が主体的に自らの考えを表現する機会がふえてくるのではないかという仮説のもと、研究主題を「考え、高め合い、表現する生徒の育成」とし、副題を「見通しと自己決定の場を通して」と設定する。

上記の研究主題のもと、さらなる余力のある教職員については、Step 3 として課題意識を明確にもたせる工夫や教科の特性に応じた思考パターンの指導、さらには発表のしかたの指導や個に応じた指導、見とりと評価といった追加の取り組み等にも挑戦する。自分なりの工夫もプラスして、研究の成果をさらに上げようとすることで、複雑にならず、これまでの実践も考慮しながら、オリジナルの工夫にも挑戦できるためである。このような2つの過程（または3つの過程）を通して、主体的な学習者（教科の見方、考え方に基づいて、学んだことを自分で表現する学習者）を育てていく実践を、全教職員で積み重ねていくものとする。

（3）具体的な手だて

① 相互授業参観（年に3回、学期に1回）の実施

＜目的＞

- ア、授業力向上のため…課題設定の妥当性、教師の出る場と待つ場、生徒同士の関わる活動の質、まとめ・振り返りによる生徒の変容を見ることで、各自の授業力向上をはかる。
- イ、生徒理解のため…学級や部活動で見る生徒が、どのような授業態度であるか等、職員全体で理解し、また支援していることを生徒に理解させる。

② 校内研修会（全教科共通）の実施

③ 教科部会の充実→年間10回 *ただし学期の評定付け、要請訪問や学校訪問の授業整理会等は含んでいない。

- ・学力、学習状況調査等の分析
- ・学力向上プランの作成および分析
- ・単元の学び方の共有
- ・教科の見方・考え方を軸とした「課題」と「まとめ・振り返り」、単元の見通し等の確認
- ・自己決定の場の設定の工夫
- ・計画的に学習する習慣をつけるための家庭学習課題の工夫
- ・10点アップ問題の吟味および分析

（10点アップ問題とは）

基礎基本の定着が不十分な生徒、学習意欲の低い生徒に成功体験を積ませ、学習意欲の喚起につなげるため、定期テストの内容を見越した基本問題（副教材から）を事前に生徒に示す。内容については、基礎・基本的な知識の定着につながるような問題とする。

採点終了後は効果検証のため、正答率等の平均値を確認して学習指導へ生かす。

●研究授業 ①について：詳細は、4月に提案予定

- ①研究授業（9月～2月）5教科および保健体育科、音楽科・技術家庭科・美術科から、それぞれ1名
- ・研究授業及び整理会に参加
 - ・金沢教育事務所指導主事の要請
- ②学校訪問（5月末）

④ 「学びの基盤となる力」（聴く力・話す力・伝える力）の育成については、全教科で取り組む。

聴く力	話す力	伝える(書く、表現する)力
<ul style="list-style-type: none"> ・傾聴三原則 ①うなずく②相づち③称賛 ・考えながら聴く力 「こういうことかな…」 自分はこう思うけど」 	<ul style="list-style-type: none"> ・相手を意識して、分かりやすく、はっきりと話す力 ①場に応じた声の大きさ ②大切なところはゆっくりと ③相手の反応を確かめながら 等 	<ul style="list-style-type: none"> ・考えたことを表現する力 ①文章で表す ②図で表す ③身体で表す ④作品で表す ⑤演奏で表す 等

⑤ 研究企画委員会（参加者：校長、教頭、教務主任、研究主任、学習担当3名、合計7名）（週1）

- ・研究企画委員会における検討内容を、各学年の学習担当が、学年会で提案する。
- ・各学年の学習担当は、代議員指導担当を兼ねる。
→学年の学習状況を把握し、また生徒が学習意識・家庭学習の取組を考えられるようにうながすため。

⑥ その他

土台：褒め・認めの言葉がけ、人間関係づくりについて

- 生徒指導部との連携 共感的な人間関係づくり、授業規律の徹底
→さわやかカード、定期的なグループエンカウンター、SCによる人間関係づくり講座 等
- 生徒活動部との連携 授業規律の徹底
→挨拶のしかた、代議員による取り組み、学習ルール 等

(4) 検証方法

① 学力・学習状況調査等の結果分析（各教科）

自校採点・分析を実施し、研究実践の検証とする。結果分析を指導に生かす。
（4月～5月、7～8月ごろ）

② 学力向上プランの作成および分析（各教科）

生徒の現状と原因をまとめることで、検証問題および次への目標について見通しをもつ。
（Ⅰ期：4月末、Ⅱ期：8月末、Ⅲ期：12月末）

③ 生徒の意識調査の集計および分析（研究主任）

授業アンケートの結果は、教諭（担当クラスの状況一覧）ごとにまとめる。
また、1～3年すべての結果については平均値を算出し、学校全体の傾向についての把握を行う。

- 「授業アンケート」 …… 7月（1学期末）、12月（2学期末）
- 「家庭学習アンケート」 …… 7月（1学期末）、12月（2学期末）、3月（3学期末）

生徒「授業アンケート」（７月、１２月）→クラス別、教科別で実施

1	課題について自分で考えている。
2	単元のはじめや授業のはじめに、見通しをもつ機会がある。（重点目標）
3	授業の中で、自分の考えを他の人に説明したり文章に書いたりするなど、自分の考えを表現している。 （重点目標）
4	授業の内容はわかりやすい。【町共通】
5	授業中、先生にほめられたり、アドバイスされている。

教師「授業アンケート」（７月、１２月、２月）→教務部の「学校評価アンケート」内で実施

1	生徒が考えたいような「課題」（目標）を設定して授業を行っている。
2	単元（題材）の導入で、単元（題材）の目標や計画を生徒に示し、見通しがもてるような活動を取り入れている。 （重点目標）
3	授業の中で生徒が自分の考えを他の人に説明したり文章に書いたりする活動などを取り入れている。 （重点目標）
4	生徒が「わかった」「できた」を実感できる授業をしている。【町共通】
5	授業中に生徒をほめたり、アドバイスしている。

生徒「家庭学習アンケート」（７月、１２月、３月）→学年別で実施

*** 各学年の学習担当は、結果を学年で共有および実態把握をし、学年の学習指導に生かす。**

1	平日（学校の授業時間以外）、１日あたり、およそどれくらいの時間、学習していますか。 （塾の時間などは含みます）
2	学校が休みの日（部活、校外活動あり）１日あたり、およそどれくらいの時間、学習をしますか。 （塾の時間などは含みます）
3	学校が休みの日（部活、校外活動なし）１日あたり、およそどれくらいの時間、学習をしますか。 （塾の時間などは含みます）